

興道会だより

米沢仏教興道会 〒992-0042 米沢市塩井町塩野1476-1 興道北部保育園内 TEL0238-40-0044 FAX0238-37-8399 発行責任者／楠 裕行



フードドライブ活動に皆様からたくさんの品物をご提供いただきました。

会長挨拶



米沢仏教興道会

第十五代会長

楠 裕行

令和五年、今年は卯（癸卯／みずのとう）年、本会が結成されてから百三十七年目を迎えました。

宗派を超えて組織されている本会は全国的にも珍しい団体です。結成当初の明治時代は仏教の「教化」や「研鑽」「思想の高揚」に力を入れておりました。大正時代から昭和初期には「免囚保護事業」「隣保事業」「林間学校」「弁当配食」「母子ホーム」「農繁託児所」等の社会事業を展開。その時代は現在のように補助金等があるわけではなく、行乞托鉢によって行われていました。そのような事業が戦後になって、現在の社会福祉法人の設立へとつながっております。社会を支えるためにお寺ができることを探ってきた歴史があります。

今の本会の事業は「のの様募金（歳末助け合い募金）」と昨年十二月に初めて実施致しました「フードドライブ事業」による社会福祉協議会への協力です。様々に変化する社会に対し、今後も本会ができることを探りながら精進していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

絵本にみる仏教・「いのち」へのまなざし

絵や言葉で物語を紡ぎ、子どもの豊かな想像力や感情を育む絵本。その多彩な表現力から、今や大人向けの絵本も登場し、豊かなジャンルが築かれています。そうした絵本の中には、仏教や仏さまに親しみを抱かせてくれる作品や、日常の中にある死や生、「いのち」へのまなざしを描き、それを見つめなおす機会を与えてくれる作品もあります。今回のコラムでは、そのいくつかを紹介しましょう。

まずは『だいがつさまのうんどうかい』（文・**荻田澄子** 絵・**中川学** アリス館）。今日はたくさんのお仏さまが参加する運動会、ひととき目を引くのは、初出場の大仏さま。でも大きすぎる体のせいで、どの競技でも失敗ばかり…。しかし最後には、その大きさを活かして…。というお話。作画の中川さんは僧侶でもあり、玉入れやまんじゅう喰い競争など、様々な競技に出場する仏さまの姿がどれも活き活きとして愛らしく、また特徴をきちんと踏まえて描かれています。楽しみながら仏像も学べる魅力的な一冊です。



次に紹介するのは『ぼくのおまいりがながいわけ』（作・**絵村田夕海子** 仏教伝道協会）。仏教書の出版や講座の開催を通して、仏教文化の興隆を目指す（公財）仏教伝道協会が創設した、「こころの絵本大賞」の第一回受賞作です。もうすぐきょうだいが生まれる「ぼく」は、仏壇の前で長いおまいり中。仏さまに願うのは、無事に赤ちゃんが生まれること、そして立派なお兄ちゃんになるために、好き嫌いをなくし、体をきたえ、やがては地球を守ること…。願いがどんどんふくらむ中で、一番したかったお願いとは…。というお話。新しい「いのち」を迎えたいと願うとともに、やっぱり自分のことを見て欲しいと揺れる、子ども心を描いた作品です。



最後に紹介するのは『このあと どうしちやおう』（作・**絵** ヨシタケシンスケ **ブロンズ新社**）です。先日亡くなったおじいちゃん。主人公の「ぼく」は、そのベッドの下に「このあと どうしちやおう」と書かれたノートを発見する。そこにはおじいちゃんが書いた「しょうらい しんだら どうなりたいか どうしてほしいか」が記されていた、というお話。ノートに描かれた「このあと」の世界や、そこでの生活が、実にユーモアたっぷりなチャタリングなものと、それを楽しく読んでいた「ぼく」が、おじいちゃんが持っていたかもしれない「さみしさやこわさ」にふと気付く場面、そして自分も「このあと」や、「いきているあいだ」のことを考えようと思いつ姿が印象的でした。死生観について大上段に構えるのではなく、こんな風に考えていいんだ、と気づかされた一冊です。皆さまもお気に入りの作品や、印象に残る作品をぜひ探してみてください。

合掌（西蓮寺 伊藤電信）

歳末たすけあい募金御礼 ののさま募金

今年度も歳末助け合い募金にご協力いただきましてありがとうございます。

令和四年十二月十二日、興道会本部にてののさま募金の受付が行われ、社会福祉法人米沢仏教興道会所属の各保育所・老人ホームの利用者様や職員の皆様、そして会員御寺院様より浄財をお預かりいたしました。

同年十二月十五日、米沢仏教興道会 楠会長より、米沢市社会福祉協議会を通じ「歳末助け合い募金」として寄付させていただきましたことをご報告いたします。

なお、寄付金は、米沢市内の福祉施設等や、支援を必要とする世帯へ届けられます。

米沢仏教興道会募金
金額 一二三、八六九円



米沢仏教興道青年会 寄付のご報告

米沢仏教興道青年会では例年、米沢イオンにて歳末助け合い募金活動を行ってまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、募金活動は中止とさせていただきます。昨年同様、米沢仏教興道青年会の予算の中から社会福祉協議会へ寄付させていただきますことをご報告いたします。

米沢仏教興道青年会寄付
金額 三万円



フードドライブ活動に ついての御礼とご報告

米沢仏教興道会の新たな取り組みとして、家庭で余っている食糧等を施設に持ち寄っていただき、それらを取りまとめて福祉団体やフードバンクに寄付する取り組み、フードドライブ活動にご協力をお願いしました。

今年度はののさま募金の日程に合わせて、会員御寺院様や法人施設職員の方々にたくさんのお食品や洗剤等をご提供いただきました。ご寄付いただきました御品物は米沢市社会福祉協議会を通じて生活困窮者等へ配布されます。

皆様の
ご厚意に
感謝申し
上げます
とともに、
フードド
ライブ活
動につい
て今後と
もご理解
とご支援
のほどよ
ろしくお
願いた
します。



令和5年度 事業計画(案)

- 4月上旬 **正会員会総会**
- 4月20日(木) **報恩供養会**
- 6月10日(土) **第99回 花まつり**
- 6月 **正会員会**
- 10月 **戦没者慰霊祭**
- 12月中旬 **歳末助け合い募金(ののさま募金)**
米沢福渡しフードドライブ

令和6年

- 1月下旬 **正会員会・新年会**
- 3月1日 **機関紙「興道会だより」第22号発刊**

※その他、花まつり関係事業、幹事会、編集委員会等を開催。
 ※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって行事の縮小・延期または中止となる可能性があります。

事業報告

令和4年度

- 報恩供養会** …………… 於：本部研修室
 ■とき／令和4年4月20日(水)
- 正会員会総会** …………… (書面議決)
 ■とき／令和4年4月22日(金)
- 戦没者慰霊祭** …………… 於：本部研修室
 ■とき／令和4年10月21日(金) ※一部役員にて
- 歳末助け合い募金(ののさま募金)**
- 米沢福渡しフードドライブ** …………… 於：本部研修室
 ■とき／令和4年12月12日(月)
- 機関紙「興道会だより」第21号発刊**
 ■とき／令和5年3月1日(水)

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、年度内の行事を一部縮小して執り行っております。
 ※その他、幹事会等を開催。



米沢仏教興道会 昌願寺 藤戸 孝司



【最後の親孝行】

都市部を中心に進んでいた葬儀の簡略化がコロナ禍によりさらに進んだと言われます。導師として葬儀を執行する際、今でもふと思いつき起こされる思い出があります。それは、実家の両親が鰻店を開店した矢先、母が病に倒れ亡くなったときのことです。

日に日に弱っていく母への悔しさと苛立ちを感じた闘病時、事実として受け入れられなかった臨終の時、悲しさのあまり先立つ娘と一緒に窯に入ろうとする祖母を止めた火葬場、心の空虚感が何か見えない大きなものに包まれるような感覚を感じた高岩寺様での葬儀。当時高校生だった私はこの初めての経験を通して「人を見送る大切さ」を強く感じたのでした。

当山の掲示板に以前テレビで紹介された次の文を掲示しました。
 「お父さんごめんね。(葬式はしないでくれ)と言われたけど、最後の親孝行させてください。最後のお願いです。娘より。」

あれから二十数年、花まつり稚児行列で騒いでいた長男が今春成人し、兄達に続き三男も得度受式の歳となり、私は母の享年の歳に近づいてきました。

「死にたくない、悔しい」と泣きながら亡くなっていった母が、僧侶となり間衣と輪袈裟を着け数珠を持つ私に

「大切な人を送ってあげたいという家族の気持ち、葬儀を行うことの尊さを忘れないで。」

そう今も語り願っている、と感じるこの頃です。